

第1章

干潟の生き物を調査しよう！

「干潟の生き物調査① 定質調査と定量調査」

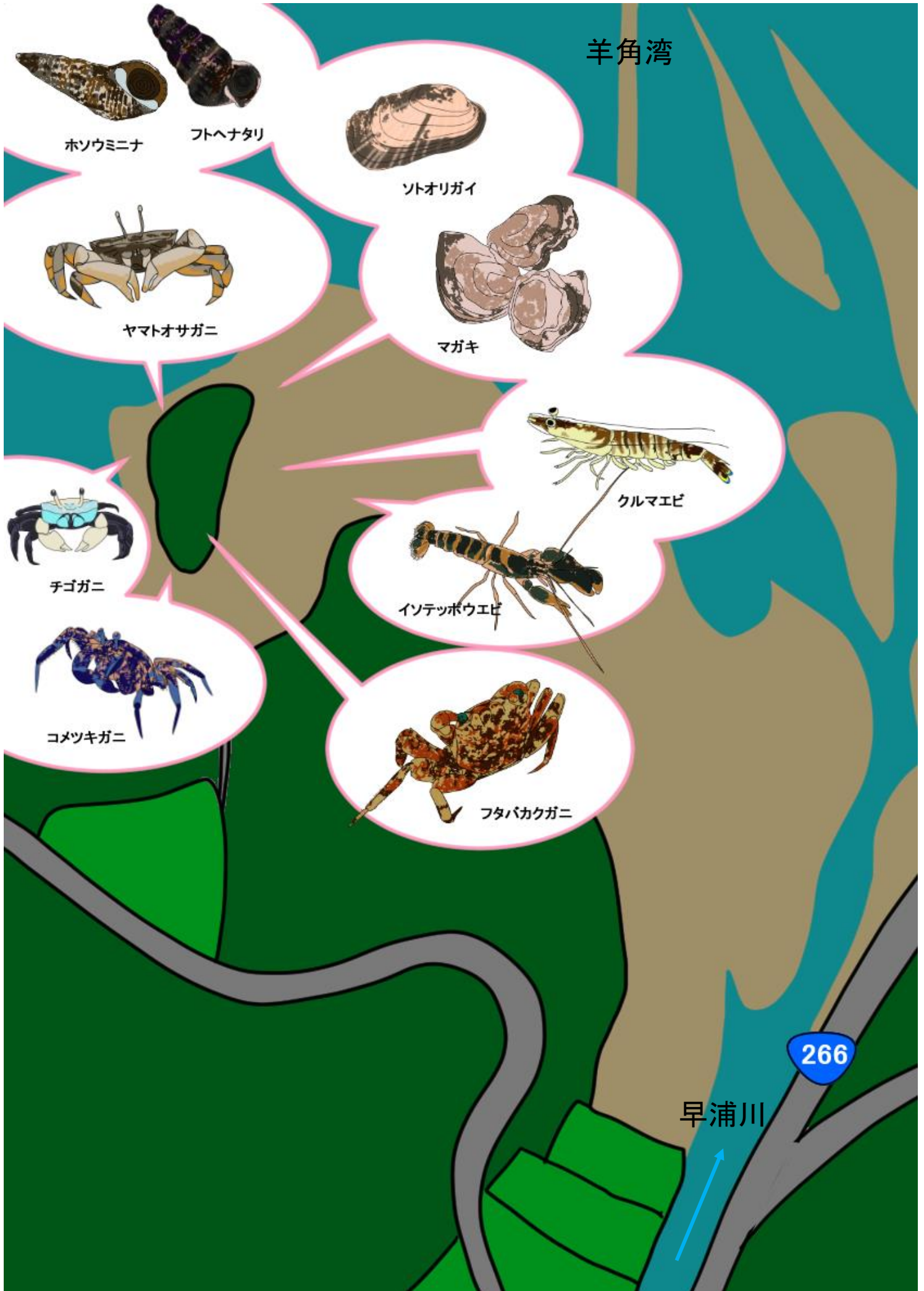
6. 羊角湾干潟で見られる生物

2021年、天草市二浦町早浦地区羊角湾の干潟で干潟生物市民調査を行いました。羊角湾は、全国的に見ても希少となった生物が多数かつ大量に生息する重要干潟のひとつです。ここでは、2021年9月4日に行った干潟生物市民調査の結果まとめた調査表を示します。またこれまでの調査をもとに羊角湾干潟の生き物マップも作成しました。こうしたマップを作成すれば、生物だけでなく地形的な変化も追うこともできます。また観察会やエコツアーの参加者に配布する資料としても使えるので便利です。

表：天草市二浦町早浦地区羊角湾の干潟市民調査の結果

天草市二浦町早浦地区羊角湾の干潟市民調査 VOL.1									
調査日	2021年9月4日（土）11:00~13:30								
調査場所	羊角湾干潟（天草市二浦町早浦地区）								
潮汐	13:05 89cm			天気		晴			
参加人数	8名								
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・15分間表層を探索して、生物を採取する（1種類につき一頭ずつ） ・15回、スコップなどで干潟の泥を掘って生物を探し出す。 ・生物の同定を行い記録する。 								
調査者	A	B	C	D	E	F	G	H	出現回数合計
ヘナタリ	1	1	1			1	1	1	6
フトヘナタリ	1	1						1	3
ウミニナ	1	1	1	1		1	1	1	7
イボウミニナ		1						1	2
ツボミガイ								1	1
オキシジミ	1		1	1			1		4
クチバガイ		1		1				1	3
アマガイ	1	1	1	1				1	5
カリガネエガイ	1	1	1		1				4
マガキ	1		1			1	1	1	5
ウネナシトマヤ	1		1					1	3
カワアイの仲間	1								1
ハクセンシオマネキ	1								1
ヒメアシハラガニ	1								1
ケフサイソガニ	1	1	1		1		1		5
フタバカクガニ			1	1			1	1	4
チゴガニ						1		1	2
ヤマトオサガニ			1		1		1		3
ユビアカベンケイ		1							1
ユビナガホンヤドカリ	1	1	1	1	1			1	6
ハサミシャコエビ		1		1	1				3
テッポウエビ		1		1					2
トビハゼ	1		1	1	1	1	1	1	7
クログチ			1	1				1	3
スジエビの仲間						1			1
コメツキガニ							1		1
ヒラシラトリの仲間							1		1
ムラサキインコ					1				1
オウギガニ					1				1
シノミミミガイ								1	1

天草市二浦町早浦地区羊角湾の干潟生きものマップ①



第1章

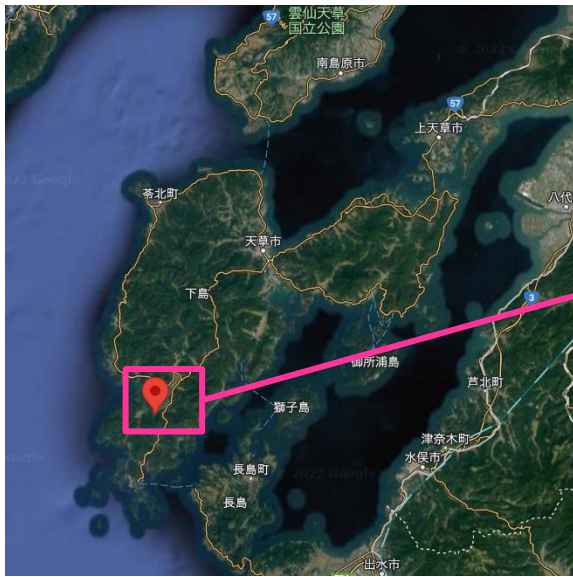
干潟の生き物を調査しよう！

「干潟の生き物調査① 定質調査と定量調査」

7. 天草市二浦町早浦地区羊角湾の概要

天草市二浦町早浦地区（はやうら）は、熊本県にある天草下島の南西部に位置する地域です。早浦地区には早浦川が流れ、ホタルやウナギが今も生息するなど豊かで美しい自然が残っています。早浦川の河口は羊角湾につながっており、広大な干潟が広がっています。羊角湾は、西側が天草灘に面し、湾の入り口は狭く、湾内は複雑に入り組んでいます。湾内では、穏やかな環境を活かして真珠やヒオウギガイの養殖などが行われています。「日本の渚 100選」にも選ばれ、早浦の対岸の崎津には、隠れキリシタンの崎津天主堂が建てられており、2018年に世界遺産に登録されたことで観光客も近年増えています。

羊角湾は生物多様性が高く、ここでしか見つかっていない生き物も生息する、とても貴重な場所です。レッドデータブックくまもと2019海洋動物編に掲載されている生物の半分以上が、羊角湾で見つかります。中でも、「ヌノメヘナタリ」は、ここ早浦で見つかり、2016年に記載された新種で、まだここでしか見つかっていない希少な種です。また、「ヒメアカガイ」と「ビョウブガイ」は、ここ20年ほどでは羊角湾でしか記録がありません。もっとも重いランクの絶滅寸前種が10種以上も羊角湾に生息していたという調査結果もあり、驚異的な環境ともいえます。これだけの絶滅危惧種が生息する干潟は、全国の中でも珍しいのです。さらに、羊角湾内には、県内最大のアマモ場も確認されています。これは国内におけるアマモの生息地南限にあたり、多くの絶滅危惧種の重要な生息環境の場であることが確認されています。



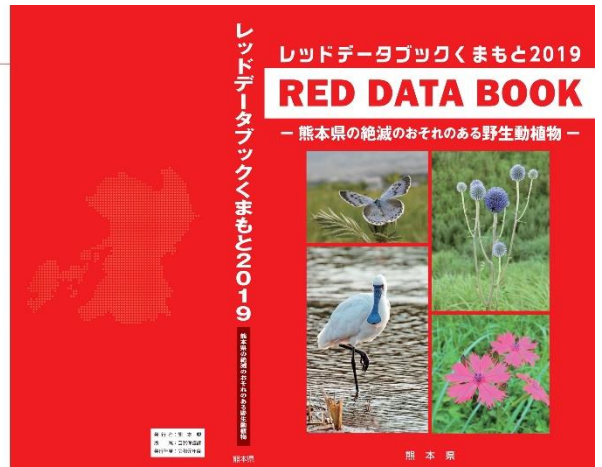
天草市二浦町早浦地区の位置 (Google マップより引用)



撮影：山下博由

ヌノヘナタリ
(レッドデータブックくまもと2019より引用)

RED DATA BOOK
KUMAMOTO
2019



レッドデータブックくまもと2019表紙
(熊本県HPより引用)

第1章

干潟の生き物を調査しよう！

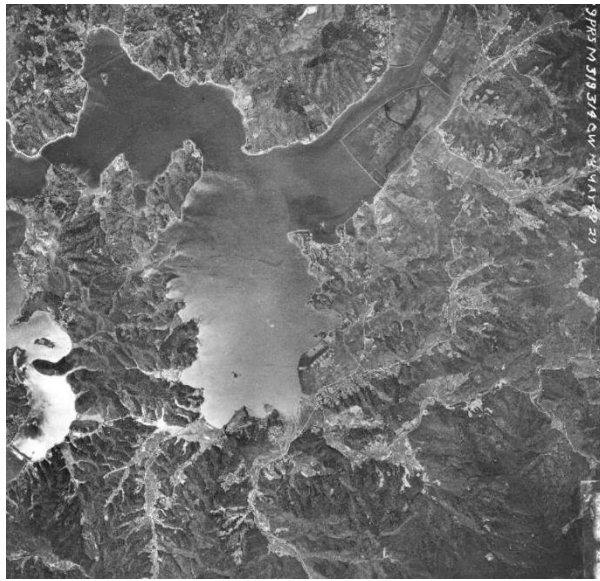
「干潟の生き物調査① 定質調査と定量調査」

7. 天草市二浦町早浦地区羊角湾の変遷と保全策

早浦地区の1947年（昭和22年）と2014年（平成26年）の空中写真を比較すると、埋め立てなどはほとんど行われておらず、豊かな自然環境が残されていることがわかります。以前、近隣でダムが建設された際、調査地となった干潟の葦原一帯が土などの投棄場所になったことがありました。葦原に生息する生物へのダメージが懸念されたため、九州大学の関係者が葦原を保全する必要があると市に提言し、保全されたという経緯があったそうです。現在では、葦原へ淡水が流入することを防ぐためのパイプも設置され、こうした保全策の効果があつたからか、葦原が以前に比べて生息域を拡大しているそうです。

これほどまでに貴重な場所である羊角湾ですが、地元の方のお話では、現在では羊角湾にあまり価値を感じていないという声を聞きました。今から60年ほど前には、アカガイやタイラギなどが肥料袋いっぱいにとれていたそうです。海水浴場もあり、夏前には海水浴場のため海岸清掃を行っていました。昔はアサリなども多く、たくさんの方が潮干狩りを楽しんでいました。しかし、近年では貝類が激減し、環境も変化したことから海に出る人も減ってしまったそうです。

早浦の干潟の地先には宮ヶ島という鳥居がある島があります。この島には弁財天様という女性の神様がいて、池のくぼには山神様がおおり、池のくぼから宮ヶ島に大蛇が下りてくるといふ伝説があるそうです。地元では、12月の第一丑の日に酒と米と塩を弁財天様に、山の神様には500円玉をカプセルに入れてお供えするという風習が今も残っています。伝統文化も受け継がれるこの羊角湾で、この貴重な環境を守るためには、羊角湾の価値を今一度捉え直し、多くの人にその価値を広めることが必要です。



1947年（昭和22年）の早浦の空中写真



2014年（平成26年）の早浦の空中写真

※空中写真は地図・空中写真閲覧サービス<https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1>より引用

天草・海の冒険サポーターズテキスト

第1章「干潟の生き物調査① 定質調査と定量調査」資料集編

■発行：天草海部 ■企画・制作：浪崎直子・正角雅代・野間英樹 ■執筆：浪崎直子

※本テキストは、2021年度地球環境基金の助成を受けて作成しました。

※本テキストでは、オリジナルを改変しての利用、有償配布、素材の流用を禁止します。